

チョウセンダイコクアリヅカムシに関する分類学的ノート

野村周平¹⁾・中田勝之²⁾

¹⁾ 国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.go.jp)

²⁾ 〒921-8112 金沢市長坂 3-4-1

Taxonomical Notes on the Brachyglutine Species *Rybaxis lamellifera* Löbl, 1973 (Staphylinidae, Pselaphinae)

Shûhei NOMURA and Katsuyuki NAKATA

Abstract. The brachyglutine species, *Rybaxis lamellifera* Löbl, 1973 was described from North Korea, which is known also from Japan (Honshu, Kyusyu). Morphological characters and taxonomical data of the species are revised.

緒言

チョウセンダイコクアリヅカムシ *Rybaxis lamellifera* Löbl, 1973 (註1) は、筆者らによって最近検討された(野村・中田, 2019) ペンギンダイコクアリヅカムシによく似た、やや小型のダイコクアリヅカムシである。本種は Löbl (1973) によって北朝鮮から記載された。タイプ産地は以下のよう記述されている: “Sökam, Kreis Sunan, Prov. Phjöngan-namdo”。つまり平安南道順安郡 Sökam ということである。順安までは行き当たったが、一番細かい地名である Sökam の所在はわからなかった。ちなみにこの順安という地名は、現在では平壤直轄市となっており、平壤都心の北部に位置する。現在の平壤国際空港が位置するところであり、この空港は順安国際空港と呼ばれることもあるそう。

日本からは Nomura (1996) によって初めて佐賀県多久市西多久町池から記録された。しかしこの地名の表記は誤りで、また、市町村合併によって行政区分も変更され、現在では佐賀県唐津市相知町池とするのが正しい。池、または池高原は、佐賀県のほぼ中央部、武雄市、伊万里市、唐津市、多久市の4市にまたがる八幡岳(763.6 m)の中腹にあり、わずかながら台地上になって、キャンプ場などもある。周囲に5個ほどのため池があって、

それらに連続した小規模な草原がある。本種はこの草原の土壌をふるって採集された。

その後、新井(2001)が、埼玉県嵐山町大蔵の、都幾川河川敷から多数採集して報告している。この環境は中流河川に沿った、川岸の(または川岸に近い)草原のようである。ペンギンダイコクのケースも同じだが、*Rybaxis* 属の各種は、採集記録が散発的で、環境の詳細がわかっている産地が数少なく、種に特有の生息環境を絞り込むことが極めて難しい。ペンギンの場合も、本種の場合も、ため池や河川、湿原などに関連する証拠はいくつか上がっているのだが、確実な生息環境を絞り込むには至っていない。ただ、いくつか貴重な採集記録の環境を明らかにすることで、これら珍種の将来の採集記録を蓄積するヒントになるのではないかと思う、以上に紹介した次第である。

材料と方法

以下に示す各種に関する走査型電子顕微鏡(SEM)を用いた写真撮影については、キーエンス社製デジタルマイクロスコープシステム VHX-2000 + VHX-D510 形式の SEM を用い、非蒸着、加速電圧 1.2 kv で行った。また、同機を用いて CCD 写真の撮影も行った。全形図の撮影においては、深度合成機能を用いた。

註1: Löbl (1973) による原記載時の種小名は *lamellifer* であった(Nomura (1996) もこれに従っている)。これは「薄片」を示すラテン語名詞 *lamella* に所有を示す接尾辞 *-fer* がついた形容詞「薄片をもつ者」の意であり、男性、女性、中性で、*-fer*, *-fera*, *-ferum* と活用する。片や属名 *Rybaxis* は原記載以降、女性名詞として使われてきており、これと結合して、本種名は女性形 *lamellifera* と使われるようになった。現在はこの名称が踏襲されている(Löbl & Löbl, 2015)。一方この属名と、種小名の結合における性の一致を示唆した、国際動物命名規約(第4版)の条31.2「性の一致」(動物命名法国際審議会, 2000)では、接尾辞 *-fer* が女性の属名に結合された際に、女性形 *-fera* と変更されることのない実例が示されている(31.2.2)。

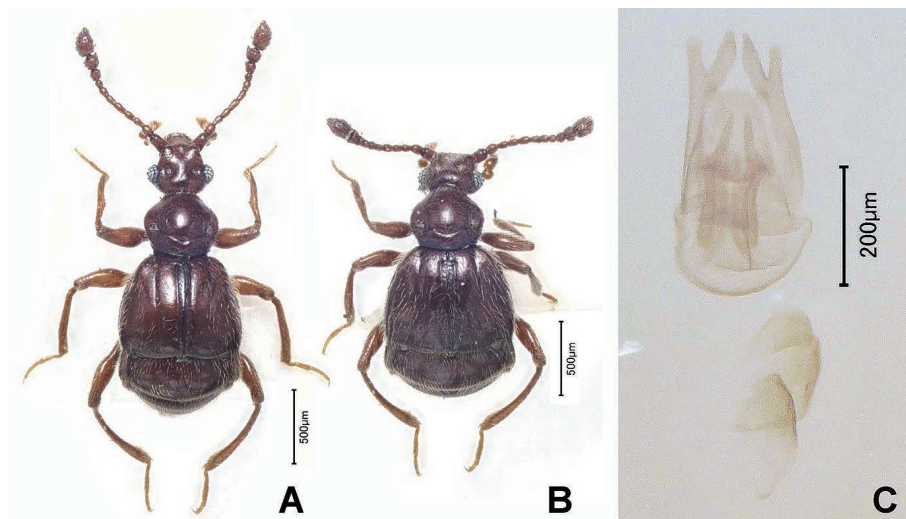


図1. チョウセンダイコクアリヅカムシ *Rybaxis lamellifera* の概形と♂交尾器形態。A, 佐賀県産♂; B, 埼玉県産♀; C, ♂交尾器背面。

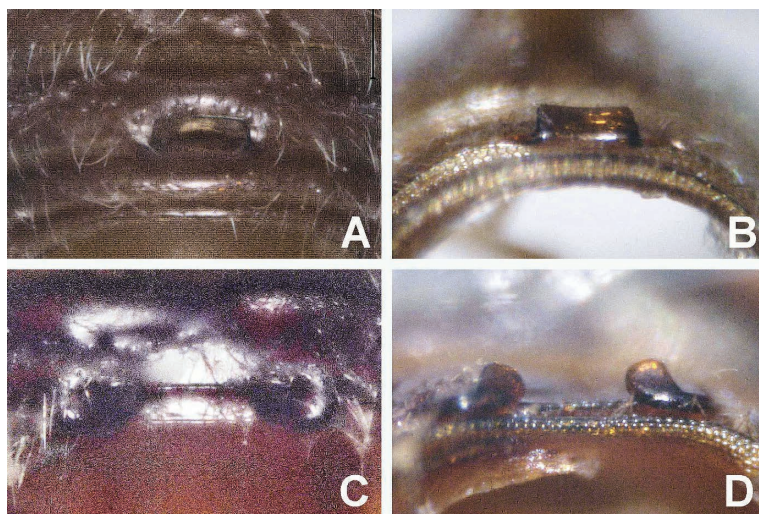


図2. チョウセンダイコクアリヅカムシおよびペンギンダイコクアリヅカムシの♂第5腹板腹面突起のCCD写真。A, チョウセンダイコク腹面図; B, 同左後面図; C, ペンギンダイコク腹面図; D, 同左後面図。

結果

以下にチョウセンダイコクアリヅカムシについて、形態の概要、雌雄および近似種との区別点、タイプ産地とタイプ標本の所在、分布の特徴、既知産地、新たに記録される産地、生息環境について記述する。さらに、本種の分布図を作成した(図3)。

チョウセンダイコクアリヅカムシ *Rybaxis lamellifera* Löbl, 1973 (図1, 2A, 2B, 3)

＜形態の概要＞ ダイコクアリヅカムシとしてはやや小型で、体形はずんぐりしている(図1A, B)。♂の体長 1.75–2.08 mm, 体幅 0.78–0.86 mm, 触角

長 0.91–0.99 mm, ♀は体長 1.68–1.74 mm, 体幅 0.81–0.86 mm, 触角長 0.86–0.92 mm。外形形態はペンギンダイコクアリヅカムシ *R. pinguis* Kurbatov に類似するが、♂の第5腹節腹面突起は一對(図2C, D)にはならず、1枚の横長の長方形の突起となる(図2A, B)ので、容易に区別できる。♂交尾器の基部カプセルは近似の種と同じく卵型であるが、先方両側に一對の側片(parameres)は、先端近くで2分岐し、先端は切断状(図1C)。

＜雌雄の区別点, 近似種との区別点＞ ♀は♂と比較してわずかに小型で、触角はやや短い。近似



図3. チョウセンダイコクアリヅカムシの分布図。

種と同様♂は前脚脛節中程に、内側へ向かう短い突起を有するので雌雄の区別は容易である。大型種では顕著な、中脚先端の蹴爪は♂でも明瞭ではない。前項に示したとおり、腹部第5節腹面の突起は単一で横長。これにより本種の♂は近似他種から容易に区別できる。ただし近似種との確実な区別には、♂交尾器側片の形状を確認する必要がある。ペンギンダイコクを始め、他の同属他種同様、他の近似種と識別可能な♀の形質は、これまでに知られていない。

＜タイプ産地とタイプ標本の所在＞タイプ産地は、上に示す通り、北朝鮮 Phjŏngan-namdo（平安南道）、Kreis Sunan（順安郡）、Sŏkam である。タイプ標本の所在は、原記載によると、ホロタイプとパラタイプの18点が、ポーランド、ワルシャワの Polska Akademia Nauk の Zoological Institute に所蔵されている。また、パラタイプの7点がジュネーブの自然史博物館に保管されている。

＜分布の特徴＞分布図（図3）に示される通り、日本海を取り巻くように、朝鮮半島、日本列島（本州、九州）に分布する。

＜既知産地＞〔北朝鮮〕“Sŏkam, Kreis Sunan, Prov. Phjŏngan-namdo”（Löbl, 1973）〔埼玉県〕嵐山町大蔵（都幾川河川敷）（新井, 2001）〔佐賀県〕唐津市相知町池（多久市西多久町は誤）（Nomura, 1996）。

＜新たに記録される産地＞〔岩手県〕1♂, 岩泉町龍泉洞（洞外）, 1. x. 1992, 野村採集；〔佐賀県〕1♂, 唐津市北波多町竹有, 31. xii. 1991, 野村採集。

＜生息環境＞原記載での生息環境は不明。龍泉洞（岩手県）の採集環境は、河川上流部に沿った広葉樹林の落葉、嵐山町大蔵（埼玉県）での環境は河川中流域の川沿いの草原。唐津市池（佐賀県）での環境は、ため池に連続する湿地の草原、唐津市竹

有（佐賀県）での環境は河川下流域の川沿いの草原であった。

考察

チョウセンダイコクアリヅカムシはやや小型のダイコクアリヅカムシで、北朝鮮、本州、九州に分布する。本種は、♂個体では、腹部腹面の横長の中央突起の存在により、近似他種から明らかに区別できる。また、♂交尾器においては、先端近くで2分岐する、きわめて特徴的な parameres（側片）を1対そなえており、近似他種とまぎれることはない。しかし一方、♀個体ではペンギンダイコクなど、近似の種と区別できる特徴をもっていない。従来日本における産地は、佐賀県および埼玉県各1カ所が知られていたが、今回、佐賀県内からさらに1カ所および、岩手県内から1カ所を新たに記録した。

本種の生息環境については、川沿いの草原であることが多いが、それ以外の環境でも見つかっており、はっきりと特定することは困難である。今後さらに記録が集積されることによって、生息環境についても解明されることを望む。

引用文献

- 新井志保, 2001. 埼玉県のアリヅカムシ相. 埼玉県立自然史博物館研究報告, (19): 1–14.
- 動物命名法国際審議会, 2000. 国際動物命名規約第4版（日本語版）. 日本動物分類学関連学会連合, 東京, 133 pp.
- Löbl, I., 1973. Beitrag zur Kenntnis der Pselaphidae (Coleoptera) der Koreanischen Volksdemokratischen Republik, Japans und des Ussuri-Gebietes. Annales Zoologici, 30 (9): 319–334.
- Löbl, I. & D. Löbl (ed.), 2015. Catalogue of palaearctic Coleoptera, Volume 2/1, Revised and updated edition, Hydrophiloidea – Staphylinoidea. Koninklijke Brill, Leiden, 900 pp.
- Nomura, S., 1996. A new record of *Rybaxis lamellifer* Löbl (Coleoptera, Pselaphidae) from Kyushu, Japan. Elytra, (24): 278.
- 野村周平・中田勝之, 2019. ペンギンダイコクアリヅカムシに関する分類学的ノート. さやばねニューシリーズ, (34): 48–51.

（2020年4月2日受領, 2020年6月25日受理）

栃木県渡良瀬遊水地で増水時に採集されたアリヅカムシ

野村周平

国立科学博物館動物研究部 (nomura@kahaku.go.jp)

Pselaphine Beetle Species (Staphylinidae) Collected from Watarase Yusuichi, Tochigi Prefecture when the Water Level was Risen in 2017–2019

Shûhei NOMURA

Abstract. A list of pselaphine species (Staphylinidae) collected from Watarase Yusuichi, Tochigi Prefecture by Mr. Hideo Ôkawa in 2017–2019 is present. Eight pselaphine species were recognized, four of which are recorded from Tochigi Prefecture for the first time.

緒言

永年、栃木県の甲虫ファウナの解明に尽力しておられる足利市の大川秀雄氏から、多数のアリヅカムシが送られてきた。早速拝見すると、2019年の台風による増水の際に渡良瀬遊水地で採集されたという標本（液浸）であった。同様の状況で採集されたという2017年の採集品も含まれていた。

ご存知のように渡良瀬遊水地は、栃木県、埼玉県、群馬県、茨城県にまたがる、関東平野最大の湿原である。またがるとはいえ、その大部分は栃木県内にある（図1）。筆者は以前に故江本健一氏から、渡良瀬遊水地で採集されたアリヅカムシの標本をかなりいただいていた。中に現在ではかなりの珍種である、草原性のクシヒゲアリヅカムシ *Ctenistes oculatus* Sharp, 1874 があり、我が国における、本種の現存する唯一の産地として注目していた。

そうした中で大川氏の標本を検したところ、8種のアリヅカムシが発見された。これらの中には、これまで栃木県からは発見されていないアリヅカムシが4種含まれていた。栃木県の昆虫資料とし

てばかりではなく、草原性のアリヅカムシの貴重な情報として以下に報告する。

材料と方法

大川氏によると、以下に示す渡良瀬遊水地の微小甲虫は、2017年と2019年の台風による増水時（図2A）に、水辺に打ち上げられたゴミ（図2B）か



図1. 渡良瀬遊水地の採集地点を含む地図。



図2. 渡良瀬遊水地の採集状況。A, 増水時の渡良瀬遊水地（下生井 2019年10月14日）；B, 増水によって岸辺に打ち上げられたゴミ（西前原 2019年10月17日）。